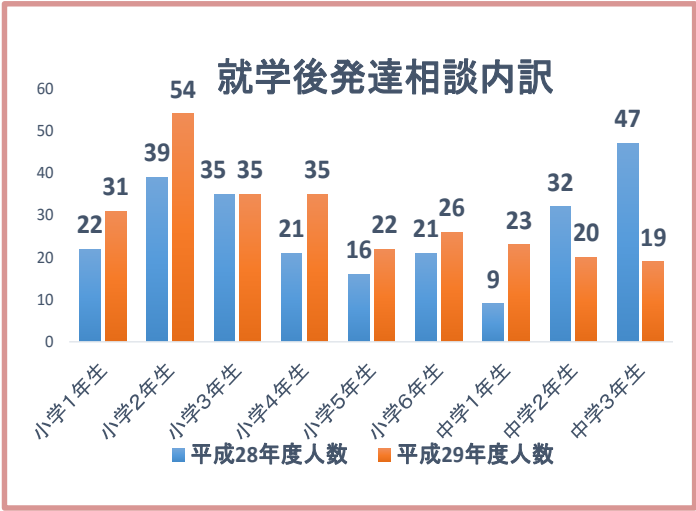
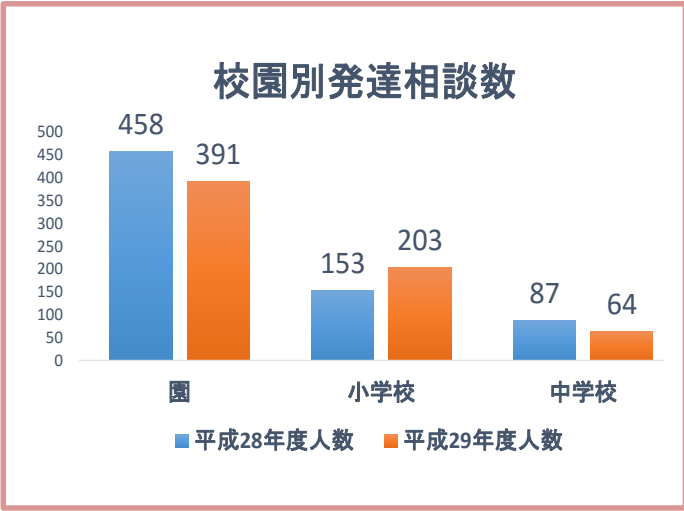
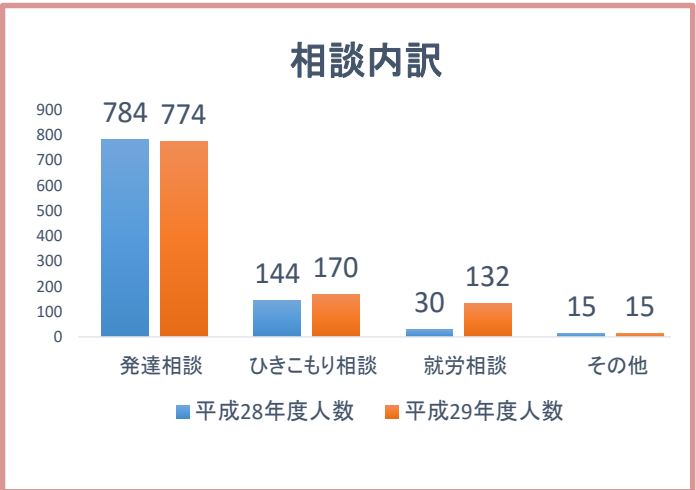
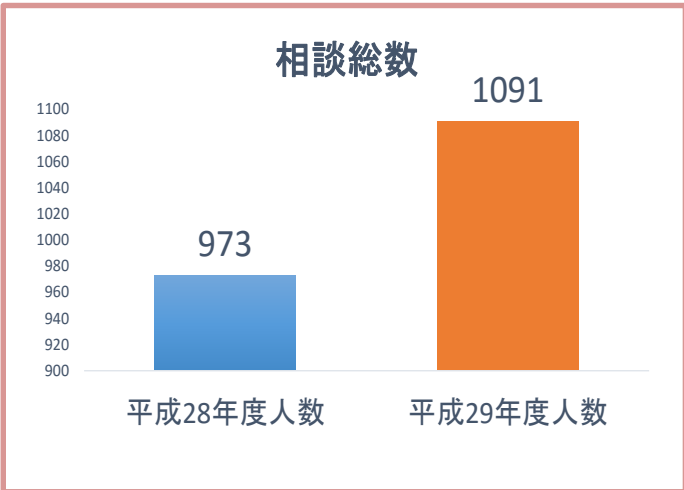




平成30年3月26日発行 守山市発達支援センター
 守山市下之郷三丁目2番5号 守山市福祉保健センター（すこやかセンター）
 Tel：077-582-1158 Fax：077-581-1628 E-mail：hattatsu@city.moriyama.lg.jp

平成29年度相談状況（2月末時点）



- ・義務教育終了後も発達支援課において継続した支援を実施していることから、青年期におけるひきこもり相談や就労相談が増加している。
- ・ライフステージの変化に応じて困り感が生じることから、小学校では低学年の相談、中学校では1年生の相談が増加している。

特別支援教育研修会

第1回特別支援教育研修会

演題：就労に向けた幼少期からの支援について

講師：竹内義博 先生（滋賀医科大学附属病院 小児発達支援講座 特任教授）
阪上由子 先生（滋賀医科大学附属病院 小児発達支援講座 特任准教授）
上羽智子 先生（守山市民病院 小児科医師）



日時：平成29年8月21日（月）午後
場所：コミュニティ防災センター 1階研修室
対象：市内各校園の教職員、関係機関等の職員
参加者：117名

参加者の声（一部抜粋）

特性を能力につなげられる支援という言葉がとても響きました。

相談スキルが大切

安定した就労には「ソフトスキル（挨拶や身だしなみなど、仕事以外の能力）」の支援が大切である。とくに、特性とうまく付き合えるようになるためには、幼少期から困ったことを相談して解決していく経験を積み重ねることが必要である。

DVD貸し出します！

第2回特別支援教育研修会



演題：発達支援にかかる集団づくりにおける合理的配慮について

講師：福岡寿 先生（日本相談支援専門員協会 顧問）

日時：平成29年11月29日（水）午後
場所：コミュニティ防災センター 1階研修室
対象：市内各校園の教職員、関係機関等の職員
参加者：91名

参加者の声（一部抜粋）

- 本人への寄り添いを勘違いしない、させない、誤学習をさせないということに気をつけて対応していきたいと思います。
- 特別扱いではなく、特性を理解した手がかりを与えることの大事さを学びました。
- 児への配慮について、職員同士で対応の仕方を共通理解していかななくてはいけないと痛感しました。

支援は頭脳プレー

支援者は、対象児の行動を観察しながら、どこに苦手さがあるのか、どうすればできるのかなど、児の行動の背景を考えて、場所、道具、活動の工夫を行うことが大切である。

また、支援者同士が対象児のことを共通理解し、役割分担をしながら一貫した関わりを行うことが有効である。